

地域医療連携だより

Vol.223

R4.1

長浜赤十字病院 地域医療連携課
〒526-8585 滋賀県長浜市宮前町14-7
TEL 0749-68-3314
FAX 0749-68-3315



地域医療支援病院・救命救急センター
地域周産期母子医療センター
地域災害医療センター
滋賀県地域がん診療連携支援病院
基幹原子力災害拠点病院



あけましておめでとうございます。
平素より当院の地域連携に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
本年もどうぞよろしくお願いいたします。



新年のご挨拶



新型コロナウイルス感染症との闘いもほぼ2年が経過しました。当初はほぼ丸腰だったものが、変異株を含めたウイルスの性質も次第に明らかになり、mRNAワクチンの迅速な開発と接種、各種治療法の開発などがあり、まだまだ油断はできないものの終息に向かっての光が見えてきているように感じられます。年末の時点で新たな変異株オミクロンについての知見は十分とは言えないものの、感染性が高く、重症化のリスクがかなり低いとすれば、「旧型」コロナウイルスが引き起こすいわゆる風邪と大差ないのではないかと希望的観測もみられるようです。年も改まったことですし、そろそろ終息後に目を向ける時期かと思われれます。



病院長 楠井 隆

マスク、身体的距離の確保、換気などは比較的少ない負担であるため当面は継続が望ましいです。在宅勤務やWeb会議は人の移動、接触やそれに伴う感染蔓延を防止するのみならず、時間やスペースの節約になることから、今後はさらに推し進められるのではないのでしょうか。そのためにはICT基盤のさらなる充実が求められますが、医療・介護においてはかなり立ち遅れていると考えられます。働き方改革の為に急速に深化させる必要があると思われれます。

当院でも原則面会禁止としていますが、医療や介護の多くの場面で人と人、特に家族との接触の重要性は…禁止されるからこそ…より強く感じられます。リアルな対人接触といっても、多人数が一堂に会してというのは、感染リスクが高く、当面慎重であるべきです。例えば大規模コンサートは、音楽の質にもよりますが、会場も大合唱となってこそ盛り上がります。これは大量生産型エンターテインメントです。だれもが、発信者になれる時代、エンターテインメントに関する嗜好もどんどん多様化すると思われれますし、AIなどを使えば容易に個別化もできるでしょう。現に、最近ではテレビを持たない人が増えているようです。即ち、時代背景からみても今後は対人接触も個人中心、家族や親密な友人との関係性が重要となるでしょう。大宴会よりは勝手呑みです。医療機関でも禁止vs許可といった画一的対応は困難になるのではないかと考えられます。

実地医療においてガイドラインの重要性が唱えられてきましたが、この方面でも多様性に関する考察が取り入れられるようになり、ガイドラインは複雑化しています。医療においても、社会においても、コロナ後は多様化に対応する時代となりそうです。

多様性を受容するためには、多様なメンバーからなるチームが必要です。医療も介護もコロナ禍でもコロナ後もピンチかもしれませんが、皆様のご理解、ご協力のもと、我々も精一杯頑張っていきたいと気持ちを新たにしています。





毎日寒い日が続きますね。
冬は足が冷えやすく、足病変が多くなる季節です。
健康な足を保てるよう、フットケアに注目してみませんか？

長浜赤十字病院フットケアチームのご紹介

構成メンバー

循環器内科医師 形成外科医師
糖尿病・内分泌内科医師 皮膚科医師
認定看護師（WOC、糖尿病看護）
フットケア指導士



対象

創治癒遅延の患者さん

検査・治療

血流評価（SPP、ABI、エコー）、血管内治療、創傷管理など

フットケア外来のご案内

毎週火曜日・水曜日午後

対象：糖尿病がある患者さん、糖尿病のない患者さんは水曜日16時枠のみ

ケア内容：足の観察、ケア方法指導（観察、清潔、保湿方法）、フットマッサージ、
鶏眼・胼胝削り、爪切り、足浴、必要であればSPP測定、靴の選び方など

患者さんをご紹介いただく際は、地域医療連携課へ電話もしくはFAXでご依頼ください。
WOCが相談を受け、SPP測定や必要時チーム内の医師と連携しスムーズに治療が行えるよう
お手伝いします。

連絡先：地域医療連携課

TEL：0749-68-3314 FAX：0749-68-3315



◆◆新任医師のお知らせ◆◆

麻酔科	モリカワ サキ 森川 咲
小児科	アカイ ユウスケ 赤井 勇介
病理	カトウ トシカズ 加藤 寿一

よろしく申し上げます。

◆◆退職医師のお知らせ◆◆

病理	行岡 直哉
小児科	傍島 宏貴

お世話になりました。

